

# 小松城代と城番

城代は城主に代わって城を預かる者で、小松城においても隠居した前田利常の在城期間を除く期間に置かれた。延宝七年（一六七九）よりは城番が置かれ、城代と城番が併存したが、これ以降の城代は金沢住となる。職掌上城代が城番の上位に立つが、小松城は実質城番が支配するところとなる。これにより明和八年（二七七二）以降城代は欠職となった。

小松城主の変遷は、①慶長五年（一六〇〇）～九年の猿千代（利常）の在城期、②慶長九年より元和の廃城まで、③元和以降寛永十六年（一六三九）の利常の隠居入城までの期間、④寛永十六年より利常の没する万治元年（一六五八）まで、⑤万治元年～廃藩までの城主の居ない期間、と大きく五期に区分できよう。



承応元年(1652)加州小松城之図(金沢市立玉川図書館所蔵) 6代目の城代前田直之は竹嶋に居住

「越登賀三州志」は①・②期に前田長種を小松城に配したことを記し、同じく「小松城来歴」も「公(利長)前田対馬長種ヲ小松城二置」と慶長五年を設定年としている。これら初期の城代職は、領内各城への武将配置と考えらるべきものであろう。

これらの設置年に対して「諸頭系譜」は、④期の慶長十六年(一六一一)よりとして、前田長種の名を記す。また「前田家譜」は①期の慶長十一年「加州小松御城御預」と記し、前田長種はそれまで「富山御城御預」であったとしている。

以上から職制上の城代の設置は、利常が金沢城に移り、利長が富山城に移った慶長十年を契機に、「前田家譜」に謂う慶長十一年よりと考えられるのではなからうか。

城代・城番の職務は、城代の任は小松表の全てを取り捌くとされ、城番設置後は城代の職務を城番に移行しており、両者の職務に大差はない。「小松表の義」全てであるが、これは城の管

理などを中心としたもので、町中については町奉行が管轄した。

城番は

六名で二人ずつ三組からなり、毎年三月十五日に交代勤務をした。二人は昼夜一名宛で本丸に詰め、

住居は三之丸の御貸家となっていた。先に職掌上は城代の下にあると記したが、管轄は金沢

の年寄中御用番の許にあり、年寄中より直接の指示を受けていた。(宇佐美孝)

小松城代歴代

1	前田対馬長種	慶長16~寛永8
2	前田内記直知	
3	前田対馬直正	
4	前田志摩直成	
5	横山左衛門	万治元~
6	前田三左衛門直之	万治2~延宝2
7	前田平大夫長成	延宝2~同6
8	前田佐渡孝貞	天和3~
9	前田備前貞親	元禄16~宝永2
10	前田修理知頼	享保元~元文4
11	前田修理知久	元文4~延享5
12	奥村内膳成象	延享5~寛延2
13	青山将監聚次	寛延3~宝暦11
14	横山藏人正従	宝暦5~
15	前田兵部孝起	宝暦13~明和6
16	前田修理知定	明和7~同8
(再起)		
17	横山藏人正和	文久3~慶応2

「諸頭系譜」より作成



三の丸北之御貸家図(金沢市立玉川図書館所蔵) 小松御城番役居住の御貸屋の絵図